

市民参加型オブジェ「私の心に残った一冊」

市民参加型オブジェも今年で4回目になりました。今回はテーマが難しかったのか、なかなか集まりませんでした。芸術祭前日には100冊程になりました。書いて下さった方は、他の方がどんな本を選ばれているかが気にかかったようで、熱心に読んでくださいました。最終的には123冊の心に残った本が集まり、壁面を飾ることができました。

『平家物語』・『徒然草』・『太平記』等の古典文学が12冊、歴史・推理・ファンタジー等の日本文学が30冊。『ごんぎつね』・『もこもこもこ』などの絵本(外国の絵本も含む)17冊、ゲーテの『ファウスト』・『赤毛のアン』等の外国文学が27冊、特にサン・テグジュペリの『星の王子さま』は4人の心に残った一冊でした。また、人生の師となるエッセーや随筆など24冊、その他、映画読本・コミックなど13冊でした。



“ひとこと” の紹介

『星の王子さま』=サン・テグジュペリ

「肝心なことは心で見ないと見えないんだ」

中学生の頃、大人になっても純真な気持ちを持ち続けたいと何度も読み返しました。

『蜜蜂と遠雷』=恩田 陸

同じ楽譜も弾く人によって聞き手には伝わり方は違うもの、私の趣味の朗読も作者の言葉はどう聞き手に届けるか、読みながら同時進行で考えてしまいました。

心に残った一冊の中にシェイクスピアの作品が選ばれなかったのが意外でした。ロミオとジュリエットの舞台公演もあったのに。私も、寄せられた作品の著者などをインターネットで調べているうちに心を動かされ、読書欲が沸いてきました。

市民参加型オブジェ担当 板屋捷子

故 広沢一岐氏を偲んで



当文団連の理事であった広沢一岐氏が、去る1月30日に急逝されました。文団連においては、総会議長や、狭山市民芸術祭の実行委員長を務められ、設立当初より文団連の運営に貢献されました。また、第8回芸術祭では舞台公演の原作執筆も担当され、その経験と知識を十二分に発揮し活躍されました。今年から発足した「狭山の文化人を知ろう」プロジェクトにおいても、中心となって活動を進めていただいていたところでした。

また、広沢氏は童句振興協会の代表として、全国「童句コンクール」の主催など童句の振興に力を注ぐほか、狭山市や近隣市の公民館にて古典文学勉強会の講師としても活躍されていました。

当文団連はもとより狭山市にとっても、まことに貴重な方をなくし、残念でなりません。広沢氏の逝去を悼み、この場をお借りして、概略ですが経歴・活動履歴をご紹介させていただきます。

広沢 一岐(いっき)(本名: 広沢謙一) 古典文学研究家、童句作家

経歴・狭山市とのかかわり

1932年(昭和7年)~2018年(平成30年) 享年85

狭山市生まれ。東京学芸大学国語科卒。雑誌社勤務を経て狭山市議会議員当選(四期在任)。

狭山市立入間公民館長、狭山市史編さん委員(委員長職務代理)等歴任。

狭山童句研究会初代会長、童句振興協会会長、その他、狭山市民大学での各種講座講師も務める。

狭山市文化団体連合会での主な活動履歴

第1回(H12)及び第8回(H19) 狭山市民芸術祭 実行委員長

小林一茶を題材にした、芸術祭小ホール公演「春ものがたり」原作(H19)

文団連設立10周年記念誌 編集委員長(H22)

狭山の文化人を知ろう」プロジェクト参加(H29)

本会報「文化のいぶき」で『狭山を愛した文学者』を連載(H29)

狭山市文化団体連合会会長 小川忠史